

□解体・処理にかかる環境負荷の推計

■案1：第一庁舎、第二庁舎、区民会館を全て解体・処理し、第3庁舎、分庁舎、プレハブ棟を残した場合

この場合の排出資材質量とCO₂排出量は表1のように推計され、約90,000[t]、約105万[kg・CO₂]である。これを、木造2階建の戸建住宅（30坪）を全て解体・処理した場合の環境負荷と比較すると、約2100棟分の排出資材質量、約1100棟分のCO₂排出量となる。なおこれは、日本の家庭約280世帯から1年間に排出されるCO₂排出量に相当する。

表1 全て解体した場合の環境負荷推計

	排出資材質量[t]	CO ₂ 排出量[kg・CO ₂]
第一庁舎	34,402.5	590,361
第二庁舎	28,792.1	487,381
区民会館	26,913.1	460,943
計	90,107.7	1,538,685

■案2：第一庁舎、第二庁舎、区民会館の内装・設備を解体・処理してスケルトン（柱・梁・スラブのみ）の状態にし、第3庁舎、分庁舎、プレハブ棟を全て解体した場合

この場合の排出資材質量とCO₂排出量は表2のように推計され、約8,400[t]、約16万[kg・CO₂]である。これを、全て解体・処理した場合と比較すると、排出資材質量、CO₂排出量共に、約10%に削減される（次ページのグラフ参照）。

表2 スケルトンの状態にした場合の環境負荷推計

	排出資材質量[t]	CO ₂ 排出量[kg・CO ₂]
第一庁舎	712.3	15,785
第二庁舎	675.5	14,510
区民会館	550.0	12,466
第三庁舎	4,267.6	76,029
分庁舎	999.0	17,797
プレハブ棟	1,193.6	21,262
計	8,398.0	157,849

※ 木造2階建戸建住宅1棟（約30坪）を解体した場合、排出資材質量は約40t、CO₂排出量は約1,400[kg・CO₂]と推計される。

※ 推計値はいずれも、解体工事簡易算出ソフト（解体システム研究所）により算出

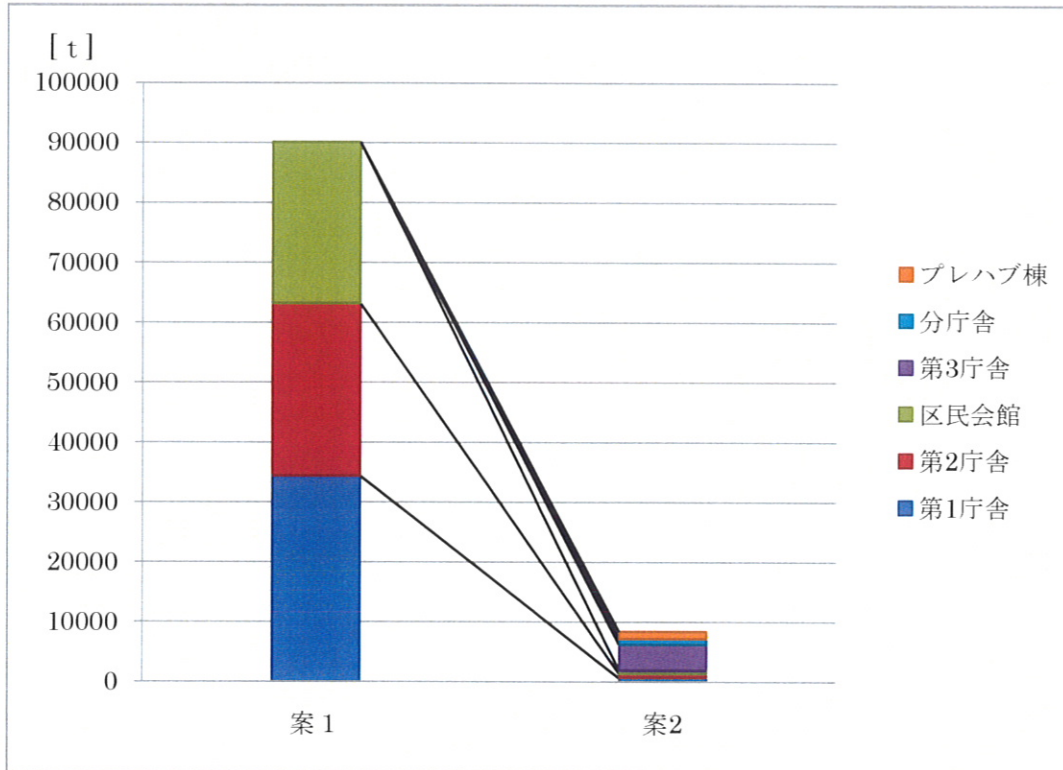


図 1 排出資材質量の比較

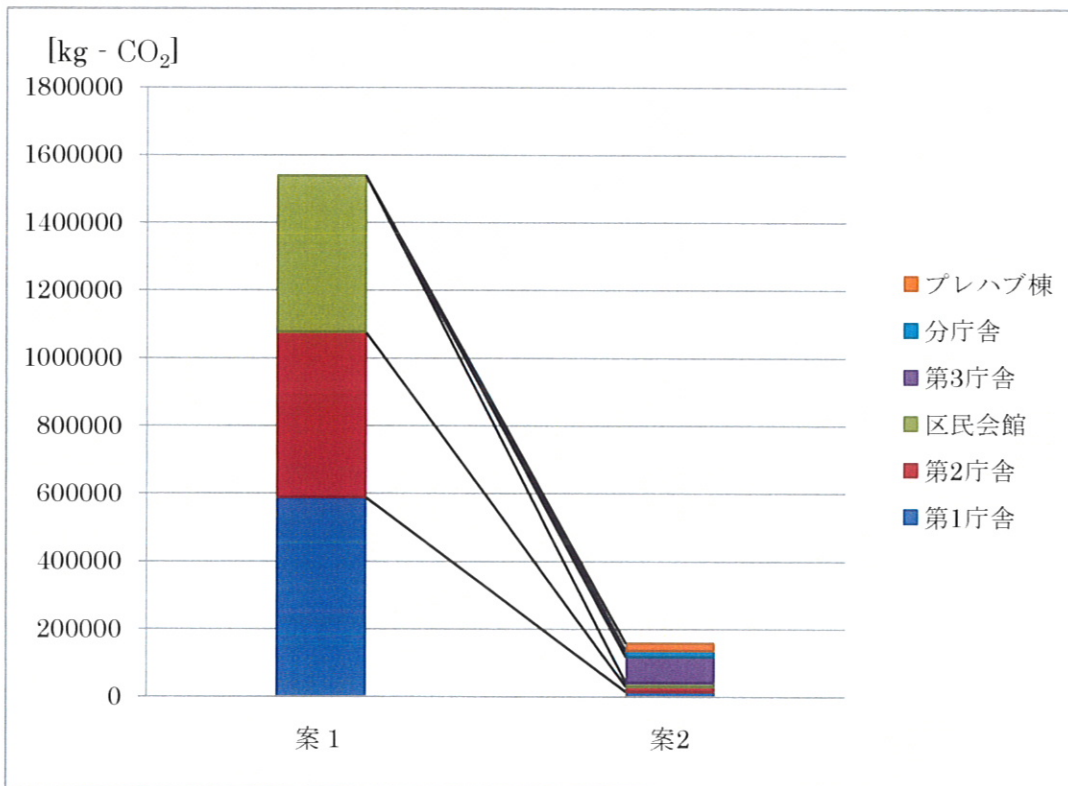


図 2 CO₂排出量の比較